

インターバンクの声（2016年5月10日）

108円前後に相当額のドル売りのオーダーが並んでいるとされたドル円だったが、昨日のニューヨーク市場の午前中には大きな反落もないまま108円台中盤までドル買いが進んだ。週末にニューヨーク連銀のダドリー総裁が年内2回の利上げ見通しを「合理的」とみているとしたことが効いているのか、はたまた繰り返し市場をけん制する麻生財務相の「介入する用意がある」との発言が気になったのか、兎にも角にも105円を割って100円を目指すような相場は回避されている。もっとも、この108円台中盤と言えは4月28日の日銀会合で一部期待が高まっていた追加金融緩和が実施されずに111円後半から一気にドル売りが進んだ後に相場が一旦小休止した水準で、ここからさらにドルが上昇するには何か新たな材料が欲しい。ニューヨーク市場の後半は、原油価格と中長期の米国債利回りが低下していてもドルが下げなかったことを考えると、原油価格が反発して金利が上昇してくれば、もう一段のドル高がありそうな気もしてしまう。しかし、気を付けなければいけないのが、週末の貿易収支に続いて今日発表される中国の消費者物価指数と生産者物価指数だ。貿易収支は影響が少なかったが、今日の数字次第では相場の足を引っ張りそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。